



注)切替部基板へのVccとGNDの接続及び各GND配線は記載を省略

- 見直し箇所
- 1) 変調器基板への+Vccを送話SWにてON/OFFする。
送話SWを片側フリクション動作をする物に変更する。これにより、上側が保持・下側に押さえるとSWが入り、離すとOFFに戻る様になる。
 - 2) ~~送信機板の初段へのVccをDiodeを通して行う。~~
2) 送話動作を目視できるようにSW端子に発光Diodeを取り付けた。
 - 3) 一段目と二段目のTrのベースに+Vccを加える。これにより、水晶発信回路と二段目のパイアスを安定化する。また、二段目と三段目のTrのコレクタ回路には変調器の出力を与えるものとする。
 - 4) 変調される声の音質をクリアーにする為、ST-41A(変調トランス)の白とGNDの間に0.1μFの高周波除去用コンデンサを入れる。(これは重要なことでした)

まとめ

今回は、QP-7C基板を用いてアマチュア的な思考方法よりAM送信機を作製することを目標においた。結果として、コロブスの卵的な手法ではあるが、受信機にてAM波を復調できた事は、まずまずの成果を得たものとする。以降は、OM諸氏よりの技術的アドバイスを受けるなどしてより良いものにして行きたいと思う。